

ID	症例名	報告	報告者	国	年	月	日	ウイルス	参考文献	内容
								ウイルス感染	ProMED-mail20080218.0645	2008年1月21日、Braziliaで32歳の男性が黄熱のため死亡した。これは、ブラジルにおける15人目の黄熱死亡患者である。Mato Grossoでも1名の感染と死亡が確認された。パラグアイ保健当局は首都Asuncionの病院で集中治療を受けていた39歳の女性が2008年2月16日に死亡したと発表した。同国ではこれまでに、少なくとも6名が黄熱によって死亡した。多くの市民がワクチン投与を求めて病院に殺到している。
								ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(45): 1181-1184	米国4州における2006-2007年のアデノウイルス血清型14(Ad14)に関連した急性呼吸器疾患に関する報告である。Ad14は稀にしか報告されないが、全ての年齢層の患者に重症で致死的な呼吸器疾患を起こす可能性がある。2006年5月にニューヨーク州で生後12日目の乳児がAd14感染により死亡し、07年3-6月にオレゴン州、ワシントン州およびテキサス州で計140名の感染患者が確認された。これらの患者から新規のAd14変異種が分離された。
								チクンゲニヤウイルス感染	Lancet 2007; 370: 1840-1846	イタリア北東部の隣接する2つの村で原因不明の発熱性疾患患者が多数報告され、ヒトおよび蚊由来の検体を分析した結果、チクンゲニヤウイルス(CHIKV)が原因であることが明らかとなった。2007年7月4日から9月27日の間に205例のCHIKV感染症例を同定した。村の親戚を訪問した時に発症したインド出身男性が初発症例と推定された。系統遺伝学的分析により、イタリアのCHIKV株はインド洋諸島での初期のアウトブレイクで分離された株と高い相同性を示した。
								バルボウイルス	Transfusion 2007; 47: 1756-1764	米国の血液センター7施設において2000-2003年の期間に採取した5020名の供血者由来の保存血漿検体を高感度PCRスクリーニング法を用いてバルボウイルスB19 DNAについて検査した。B19 DNA陽性率は0.88%であった。DNA陽性検体の全てがIgG陽性で、23%がIgM陽性であった。IgM血清陽性率はDNA値と相関した。

ID	受理日	発着	報告者	種別	国名	地域	施設	担当	備考	内容		
										異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2007年プリオン研究会 Poster-38	BSE感染ウシ由来の脳乳剤を用いてPrPresのin vitro感染系の確立を試みた。感染させたヒト由来グリオーマ細胞株から抗プリオン抗体に反応する約30KのPK耐性のバンドが検出された。このバンドは非感染細胞には存在しなかった。また、9ヶ月継代した感染細胞の培養上清に伝達性があることが明らかとなった。さらに20nmのウイルス除去膜によって培養上清の伝達性が減少することが認められた。
										異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20080107.0087	英国National CJD Surveillance Unitに報告された2008年1月7日現在のCJD数は、vCJD診断確定死亡症例(確定例)114名、vCJD可能性死亡症例(神経病理学的確定診断がない)48名、vCJD可能性死亡症例(神経病理学的確定診断待ち)1名で、vCJD診断確定または可能性例の死亡総数163名であった。生存中のvCJD可能性症例数は3名であった。英国におけるvCJD流行は減少しつつあるという見解に一致する。
										異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Microbiol Immunol 2007; 51: 1221-1231	感染動物モデルにおいても、血中のPrPresは白血球を除きめつたに検出されない。新規の酸性SDS沈殿法と高感度化学発光法とを組み合わせることにより、プロテイナーゼK耐性3F4反応性タンパクが、スクレイビー感染ハムスターの血漿中からは検出されるが、疑似感染ハムスターでは検出されないことが示された。血漿中においてPrPresは他の血漿タンパクと糖鎖を通じて凝集しており、スクレイビー感染ハムスター血漿において検出可能となったことが示唆された。
										異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2008; 82: 3697-3701	非典型的BSE株の1つであるBASE(またはBSE-L)の感染性およびヒトでの表現型を調べた。BASEウシ由来の脳ホモジネートを、ヒトプリオン蛋白を発現するトランスジェニック(Tg)マウスに接種したところ、60%が20-22ヶ月後に感染し、古典的BSEに関する報告より高い感染率であった。BASE感染ヒト化Tgマウス脳における病因性プリオンのアイソフォームは、元のウシBASEまたは孤発性ヒトプリオン病のものとは異なっていた。またBASEプリオンはリンパ向性であった。

ID	発症日	患者	報告者	製品名	製造国	製造工程	有	無	無	感染	参考文献	内容		
										E型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 283-288	英国サウスハンプシャーの単一施設において2005年6月から13ヶ月間にE型肝炎13例が発生した。これらの患者はルーチンのE型肝炎血清検査を導入開始後に特定された。同一期間中A型肝炎は2例、B型肝炎は4例であったことから、原因不明の急性肝疾患を発症し、関連する渡航歴のない患者全員にルーチンのE型肝炎検査を実施することが重要と考えられる。		
										E型肝炎	N Engl J Med 2008; 358: 811-817	2004年1月1日～2006年12月31日に腎移植(241名)または肝移植(86名)を受けた患者の移植時の抗HEV IgG保有率は、各々14.5%または10.4%であった。この内、肝移植を受けた3名、腎移植を受けた9名、腎臓と脾臓の移植を受けた2名の計14名で急性HEV感染を同定したが、全員血清HEV RNA陽性であり、内8名が慢性肝炎となった。移植から診断までの時間は短く、慢性肝炎に進展した患者ではリンパ球数並びにCD2、CD3およびCD4 T細胞数が有意に低かった。		
										エボラ出血	ProMED-mail20071130.3869	保健当局は、ウガンダ西部において16名が死亡し、他に50人が罹患したエボラウイルスは、新規の株であると2007年11月30日に発表した。最初の症例はコンゴ民主共和国と国境を接するBundibugyo地区において11月10日に報告された。この株では出血はあまり見られず、患者は高熱の後、死亡する。		
208	2008/05/30	80208	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	ベミン	ウシ	米国及び製造時にBSE問題のない国	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	第56回日本感染症学会東日本地方会総会、第54回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会 2007年10月26-27日	酪農業を営む50歳男性が、2007年4月初旬より、全身倦怠感、39度台の発熱、悪寒が出現し、腰背部痛が出現し徐々に激しくなったため4月10日に受診した。5月18日に入院し、血液培養から連鎖球菌が検出され、肺塞栓、脊椎炎を合併した感染性心内膜炎と診断された。ペニシリンとゲンタマイシン併用投与により軽快した。同菌はStreptococcus suis 2と同定され、牛の飼育から感染したと思われる。

209	2008/05/30	80209	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	第56回日本感染症学会東日本地方会総会、第54回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会 2007年10月26-27日	80208に同じ
210	2008/05/30	80210	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌荚膜ポリサッカライド	肺炎球菌荚膜	米国	有効成分	無	無	無			
211	2008/06/04	80211	メルクセロノ	精製下垂体性腺刺激ホルモン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO/GSR 2007年12月4日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update4):2007年12月4日、中国保健省はH5N1トリインフルエンザウイルスの新規のヒト感染症例を報告した。症例はJiangsu省の24才の男性で、12月2日に死亡した。中国での確定例は26例で、うち17例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/GSR 2007年12月9日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update5):2007年12月9日、中国保健省は同ウイルスの新規ヒト感染症例を報告した。Jiangsu省の52才の男性で、12月2日に同ウイルス感染で死亡した24才男性の父親で、現在入院中である。中国での確定例は27例で、うち17例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20080218.0656	2008年2月18日に中国保健省はHunan省でヒトでのトリインフルエンザ症例1例を確認したと発表した。症例は22才の男性で、1月16日に発症し、1月24日に死亡した。中国CDCはH5N1陽性であることを確認した。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20080221.0710	2008年2月21日、中国保健省は29例目のH5N1トリインフルエンザ症例/19例目の死亡例を確認した。Guangxi Zhuang自治区Nanning Cityにおいて41才男性が2008年2月20日に死亡し、H5N1検査に陽性であった。2月18日にはHunan省でヒトでのトリインフルエンザ死亡症例1例を確認しており、今月2例目のトリインフルエンザ死亡例である。

ID	国名	疾病	報告日	報告機関	報告内容	備考
		鳥インフルエンザ		ProMED-mail20080225.0758	WHOは中国でヒトにおけるトリインフルエンザの29例目の症例および死亡19例目を確認した。また、2008年2月25日に香港政府は、中国南部Guangdong省の44才の女性がH5N1トリインフルエンザウイルスに感染していることが疑われていると報告した。この症例は同年2月16日に発症したが、診断はまだ確定されていない。中国における30例目のトリインフルエンザ疑い症例である。	
		鳥インフルエンザ		ProMED-mail20080226.0784	中国南部Guangdong省の44才の女性がH5N1トリインフルエンザウイルスに感染し、死亡した。病気の家禽から感染したと思われる。中国で確認された30例目の症例/20例目の死亡例である。	
		感染		ProMED-mail20071124.3799	中国HankouのJiayuanの保育園の同じクラスの生徒約20例が原因不明の疾患を発症した。2007年11月19日から発症し、口腔内潰瘍、発疹および微熱の症状を呈した。	
		ブルセラ症		ProMED-mail20071206.3936	中国保健省は2007年12月3日に、中国でのヒトにおけるブルセラ症の増加は継続しており、Heilongjiangにおける症例数が特に多いと述べた。保健省の統計によると中国のヒトにおけるブルセラ症の防止および管理は重大な状況にあり、ウシおよびヒツジ生産地域における発生は重大な懸念である。	
		ベスト		ProMED-mail20071212.3998	中国保健省は2007年12月10日、2007年11月にGansu省が2例目のベスト症例を報告したと発表した。患者は死亡した。Gansu省では2007年9月に中国で初めてのベスト症例が報告された。	
		細菌感染		ProMED-mail20071231.4200	2007年12月29日に中国KaohsiungのLiang Jen病院からHualienのYuli sanatoriumへ移された患者9例の血液に高濃度のEntamoeba histolytica抗体が確認され、検査でこの9例のうち3例において感染が示された。Liang Jen病院の消毒および患者の検査が実施され、14例がアメーバ赤痢感染が疑われている。	
		チクングニヤウイルス感染		ProMED-mail20080109.0106	台湾CDCは2007年12月28日および30日にチクングニヤの輸入症例2例を検査により特定した。この2例はいづれもインドネシア人で各々、12月20日および27日に発症した。	

											チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20080428.1470	台湾Taoyuan郡保健省は2008年4月23日、北部で今年初めてのチクングニヤ熱症例を確認した。患者は58歳の台湾人ビジネスマンで、2008年の3月26日から4月9日に上海、4月9日から19日にジャカルタに旅行した。	
											ハンタウイルス	ProMED-mail20080119.0249	台湾保健局は2008年1月11日、今年初めてのハンタウイルス出血熱症例を発表した。台湾の46歳のビジネスマンで、中国の内モンゴルへ頻りに旅行しており、先月内モンゴルで鼠にかかったラットを処分するときにラットに接触していた。	
											細菌感染	ProMED-mail20080409.1305	香港保健センターは2008年で1例目のコレラ症例を確定した。Wong Tai Sin地区の26歳の女性である。2008年3月29日から4月2日フィリピンへ旅行し、下痢、腹痛、眩暈および嘔吐の症状を呈した。患者はコレラ菌Ogawa型陽性であった。	
											E型肝炎	ProMED-mail20080415.1358	香港保健センターは2008年4月14日、E型肝炎感染に対する警告を発し、食物、環境衛生を厳密に観察するよう呼びかけた。最近、E型肝炎感染頻度が増加しているのに対して行われた。	
212	2008/06/04	80212	メルクセローノ	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	無	結核	ProMED-mail20071111.3664	Canadian Food Inspection AgencyはBritish Columbiaの飼育場でウシ結核が発見されたとのPrince George Citizenの報告を受けて、AlbertaおよびBritish Columbia における約30件の飼育場の検査を行った。
											結核	ProMED-mail20071202.3884	Vanderhoofの農場にいた雄ウシにおいてウシ結核が発見された後(2007年8月に確認された)、カナダBritish ColumbiaおよびAlbertaの30を超える農場が検査中である。今までのところ、当該牛に直接接触した221頭のウシが処分された。	
											結核	ProMED-mail20080123.0285	米国Minnesota Board of Animal Healthは本日(2008年1月22日)、Roseau郡の食用ウシの群れがウシ結核検査に対して陽性であったと発表した。新しく検出されたRoseauの群れは2005年と2006年の検査では陰性であったが、2007年11月の検査で1頭がウシ結核の疑いとなり、先週ウシ結核と確定された。	

